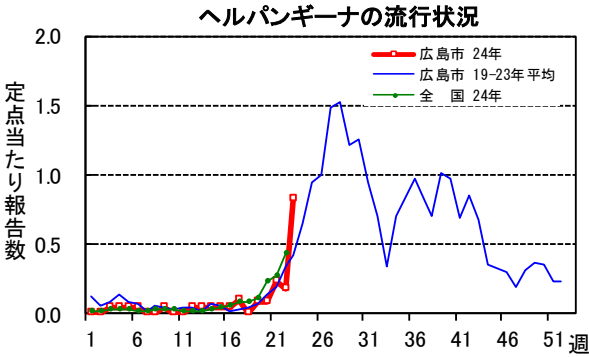
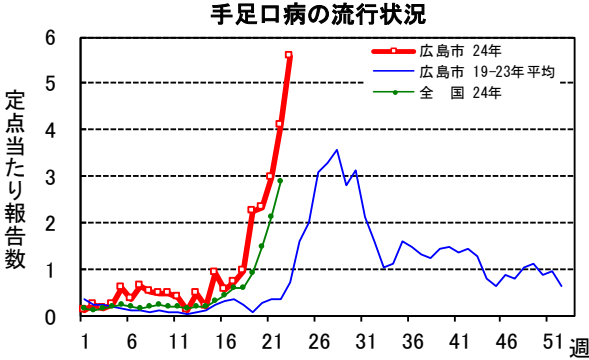


■コメント

- 1 手足口病
定点当たり5.59人の報告があり、前週の約1.4倍に増加し、警戒レベル(定点当たり5)を上回りました。(次ページ参照)
- 2 ヘルパンギーナ
定点当たり0.82人の報告があり、前週と比べて大きく増加しました。ヘルパンギーナは、いわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患の一つです。感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染です。回復後も2～4週間程度、便中にウイルスが排泄されますので、手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。
- 3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)
定点当たり2.49人の報告があり、前週の約1.3倍に増加しました。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。
- 4 流行性角結膜炎
定点当たり2.38人の報告があり、多い状況が続いています。流行性角結膜炎は、アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎です。感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	1	0.03	0.42		小児科	ヘルパンギーナ	18	0.82	0.42	↑
	新型コロナ(COVID-19)	87	2.49		↗		流行性耳下腺炎	2	0.09	0.09	
小児科	RSウイルス感染症	23	1.05	1.17	↗	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	13	0.59	0.44			流行性角結膜炎	19	2.38	0.40	↗
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	3.00	1.41	↗	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	148	6.73	5.29	↗		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	6	0.27	0.19			マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.03	
	手足口病	123	5.59	0.70	↗		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	9	0.41	0.06			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4	0.57	-	
	突発性発しん	5	0.23	0.36							

急増減↑
増減↗
微増減↘
横ばい→

前週と比較しておおむね1:2以上の増減
前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	44	90歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	3	11	10歳代・O115・1人、40歳代・O115・2人
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	14	60歳代、80歳代
5	梅毒	3	58	20歳代・2人、50歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	(C O V I D - 1 9) 新 型 コ ロ ナ	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎	(感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス)
報告 数	広島市	第19週	4	51	22	10	59	97	9	49	-	8	2	1	-	14	-	-	4	-	1
		第20週	4	60	29	12	90	137	3	51	-	2	2	2	-	10	-	-	-	-	-
		第21週	2	69	22	19	105	107	17	65	6	5	5	1	-	9	-	-	2	-	2
		第22週	6	67	20	14	67	148	5	90	-	8	4	-	-	13	-	1	-	-	-
		第23週	1	87	23	13	66	148	6	123	9	5	18	2	-	19	-	-	2	-	4
定 点 当 た り	広島市	第19週	0.11	1.46	1.00	0.45	2.68	4.41	0.41	2.23	-	0.36	0.09	0.05	-	1.75	-	-	0.57	-	0.14
		第20週	0.11	1.71	1.32	0.55	4.09	6.23	0.14	2.32	-	0.09	0.09	0.09	-	1.25	-	-	-	-	-
		第21週	0.06	1.97	1.00	0.86	4.77	4.86	0.77	2.95	0.27	0.23	0.23	0.05	-	1.13	-	-	0.29	-	0.29
		第22週	0.17	1.91	0.91	0.64	3.05	6.73	0.23	4.09	-	0.36	0.18	-	-	1.63	-	0.14	-	-	-
		第23週	0.03	2.49	1.05	0.59	3.00	6.73	0.27	5.59	0.41	0.23	0.82	0.09	-	2.38	-	-	0.29	-	0.57
	全国	第21週	0.24	3.35	1.51	0.83	5.04	4.94	0.22	2.13	0.06	0.32	0.28	0.07	0.05	0.67	0.01	0.01	0.28	-	0.02
		第22週	0.19	3.52	1.31	0.84	4.85	4.80	0.22	2.89	0.06	0.34	0.44	0.07	0.03	0.73	0.03	0.03	0.23	-	0.03

新たに判明した病原体検出状況

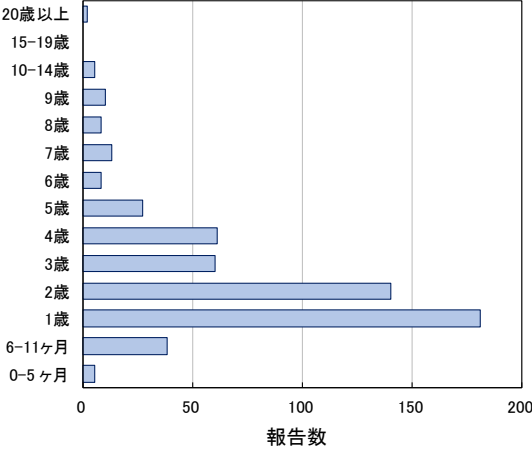
(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(38.5℃) 丘疹 口内炎 鼻炎	1	2024/04/06	咽頭拭い液	コサッキーウイルスA6型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市における手足口病の年齢階層別報告数(2024年累積)

小児科定点からの手足口病 年齢階層別報告数
2024年累積(第23週現在)



広島市における小児科定点からの手足口病累積報告数(558件)を年齢階層別にみると、1歳が181件(32.4%)と最も多く、5歳以下の報告数が全体の91.8%を占めています。

手足口病は、口の中の粘膜や手足などに水疱性の発疹がでるウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に流行がみられます。ほとんどは数日のうちに治りますが、まれに髄膜炎や脳炎などの中枢神経系合併症や心筋炎などを引き起こすことがあります。

感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染です。感染を予防するには、手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けることなどが大切です。特に、乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは集団感染が起こりやすいため、注意が必要です。

【参考】手足口病に関するQ&A(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/hfmd.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp